

# 積立投資で始める楽々資産形成

思い立ったが吉日

## Let's 積立投資!!



『資産形成なんて無理だ』とあきらめていませんか？



まとまった資金がない・・・

何もしなければ、いつまでたっても  
資産形成はできませんよ！

積立投資なら、  
まとまった資金がなくても資産運用が始められ、  
知らないうちに資産が積み上がっていきます。

いつ投資したらいいのかわからない・・・

積立投資は、毎月決まった日に自動的に投資してくれる  
ほったらかしの楽ちん運用です。

難しいことは気にせずに  
気楽に資産形成を始めましょう！



※上記はイメージです。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。



# 積立投資の資産形成力

『積立投資の資産形成力』は『凄い』んです。

例えば、2010年12月から10年間、毎月1万円ずつ、**先進国株式**に投資するファンド(投資信託)に、**定額積立投資**していたらどうなっていたでしょうか？

10年間

積立総額は120万円  
(1万円×12ヵ月×10年)

10年後

時価は約233万円  
(投資終了日時点)

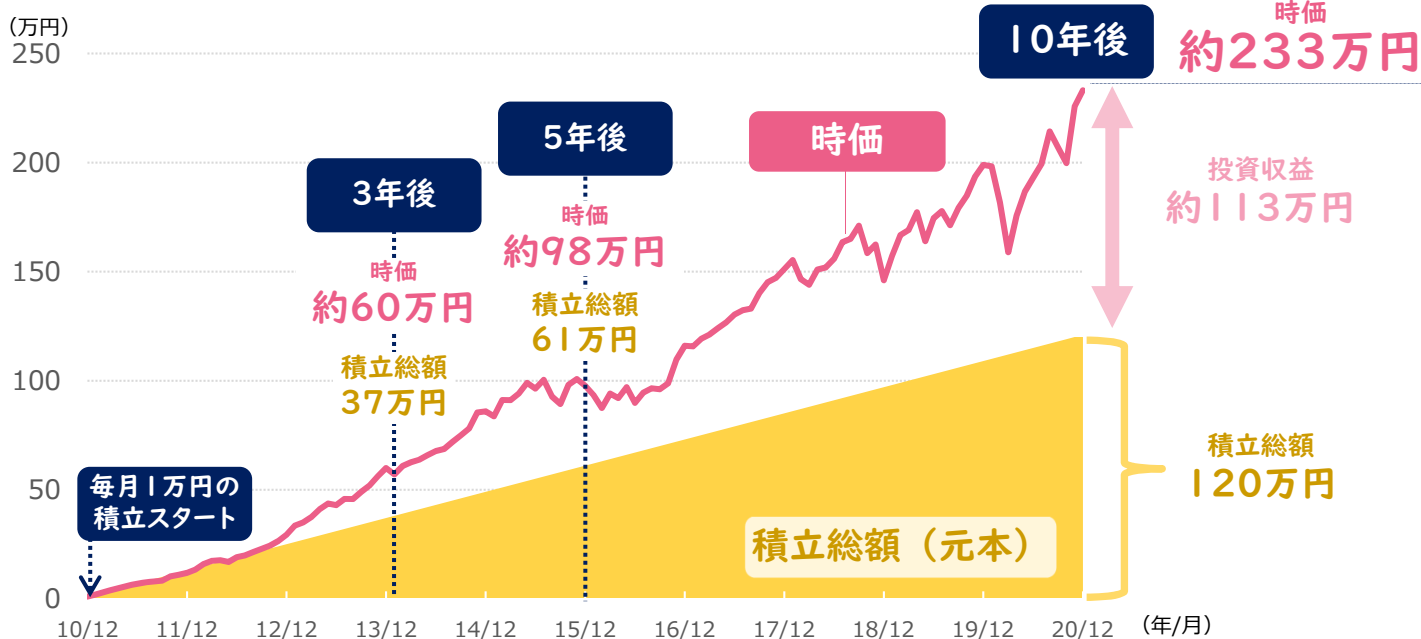
なんと、時価は積立総額の約1.9倍になっていました。  
年率に換算すると**6.9%の投資リターン\***が得られたことになります。



※上記はイメージです。

先進国株式ファンドに、毎月1万円ずつ、10年間、定額積立投資をした場合  
(2010年12月末(投資開始日)~2020年12月末(投資終了日))

※実際には、投資対象の価格動向次第で、積立投資終了時の時価が積立総額を割り込み、投資損益がマイナスになる場合があります。



\*リターンは投資成果を直感的にイメージしやすい時価/積立総額から求めた簡易的なもの。投資評価で使われる金額加重収益率ベースでは年率12.9%。  
 (注1) 先進国株式ファンドの定額積立投資のデータは、実際のファンドではなく、MSCI先進国株式指数(配当込み、円ベース)を使用して算出。投資開始日から投資終了日の前月まで、毎月末に1万円ずつ投資をしたと仮定したシミュレーション。10年後以外は月末の積立額考慮後。  
 (注2) 投資に係る費用(販売手数料、信託報酬、税金等)は考慮していません。  
 (出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

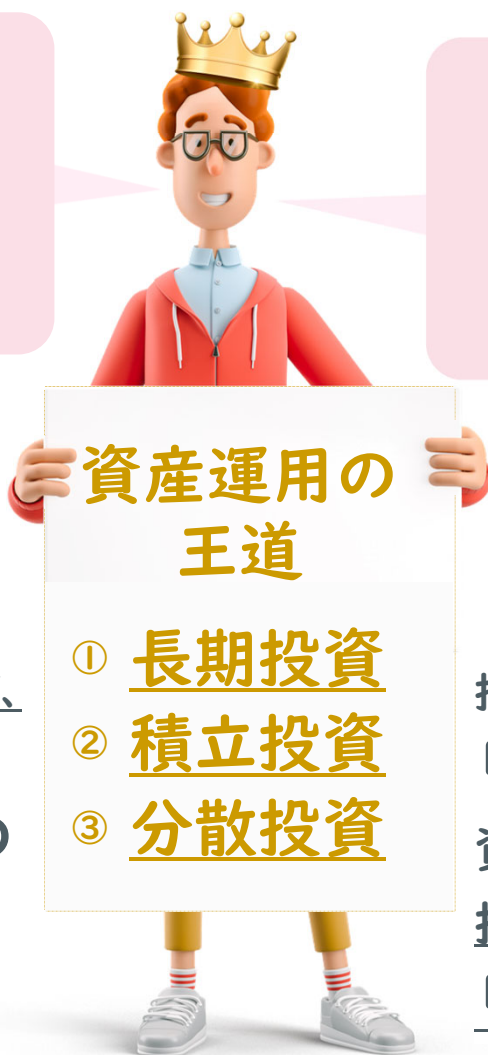
※上記は過去のデータを基に行ったシミュレーションであり、実際の投資成果ではありません。また、将来の成果を示唆あるいは保証するものでもありません。  
 ※実際の積立投資においては各種の手数料、報酬、税金等がかかる場合があります。

# 投資信託の積立投資で実現する 資産運用の王道

『資産運用の王道』って、ご存知ですか？  
積立投資なら簡単にクリアできますよ

長期の積立投資で  
資産運用の王道の  
2つをクリア

投資信託への  
積立投資で  
分散投資をクリア



『長期的』に  
『積立投資』を行えば、

資産運用の王道の  
2つはクリアです。

- 資産運用の  
王道
- ① 長期投資
  - ② 積立投資
  - ③ 分散投資

投資リスクを低減するための  
『分散投資』も  
資産運用の王道です。  
投資信託を利用すれば、  
『分散投資』が可能です。

少額でも  
長期投資で、  
大きく育つ！  
それが積立投資！



※上記はイメージです。

# 継続は力なり



## 長く積立投資を継続するほど

### 『資産は育ち、元本割れリスクも低下』

投資の王道といわれる積立投資ですが、投資対象の価格変動次第では『元本割れ\*』となる場合があります。

\*投資対象の時価が積立総額（元本）を下回り、投資損益がマイナスになること。

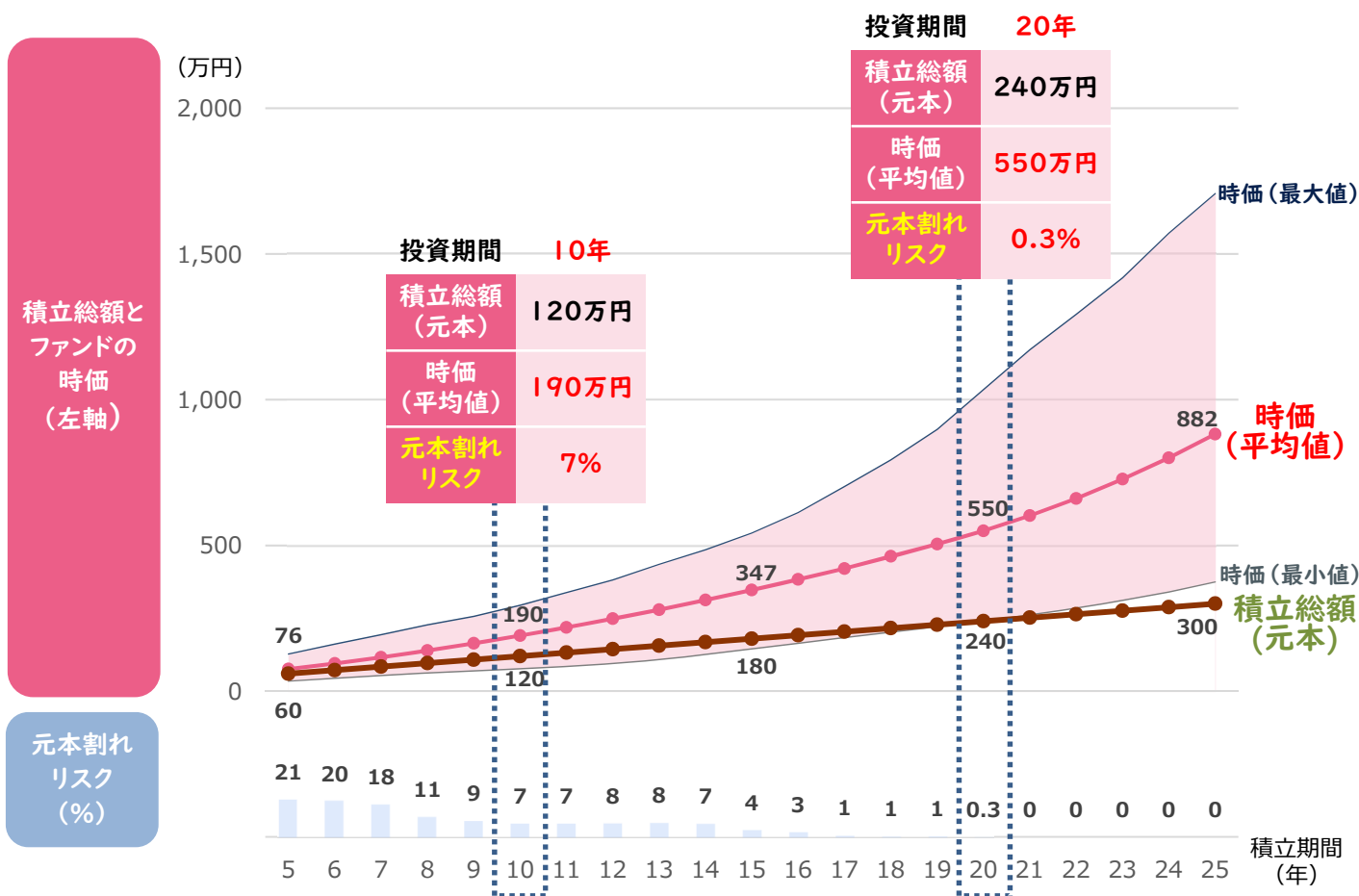
### 先進国株式では約20年で元本割れがほぼ0に

先進国株式に投資する投資信託に定額積立投資をしていた場合

投資期間10年の元本割れリスクは7%でしたが、

投資期間20年の元本割れリスクは0.3%でした。

先進国株式ファンドに、毎月1万円ずつ定額積立投資をした場合  
(投資期間5~25年(検証期間50年:1970年12月末~2020年12月末))



(注1) 先進国株式ファンドの定額積立投資のデータは、実際のファンドではなく、MSCI先進国株式指数（配当込み、円ベース）を使用して算出。  
 (注2) 投資開始日と投資終了日の双方が1970年12月末~2020年12月末に含まれるデータのみを集計。投資開始日から投資終了日の前月まで、毎月末に1万円ずつ投資をしたと仮定。投資に係る費用（販売手数料、信託報酬、税金等）は考慮していません。  
 (注3) 元本割れリスクは各期間の総データに占める元本割れ（時価が積立総額（元本）を下回る場合）の比率。  
 (出所) FactSetのデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

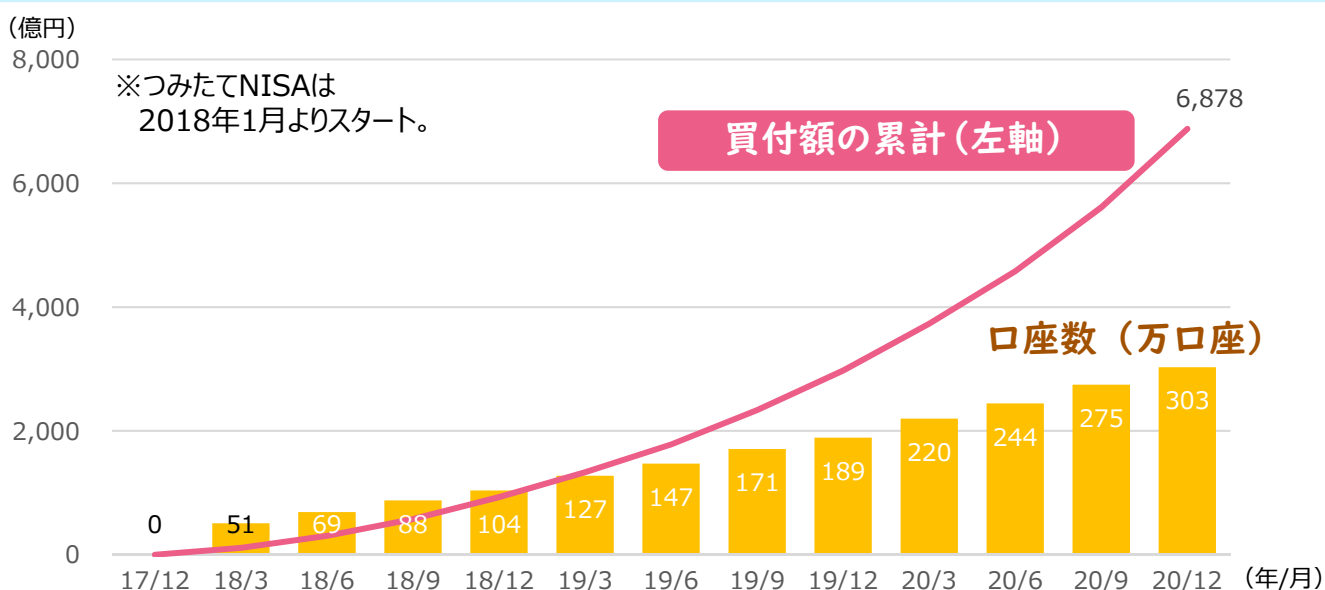
※上記は過去のデータを基に行ったシミュレーションであり、実際の投資成果ではありません。また、将来の成果を示唆あるいは保証するものでもありません。  
 ※実際の積立投資においては各種の手数料、報酬、税金等がかかる場合があります。



# 積立投資を始める人が どんどん増えています

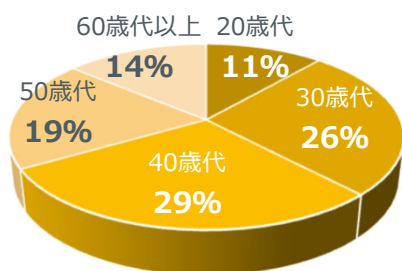
投資信託に積立投資することで最長20年間非課税制度が利用できる『つみたてNISA\*』の口座数と買付額がどんどん増えています。

つみたてNISAの口座数と買付額の推移  
(2017年12月末～2020年12月末(四半期毎))

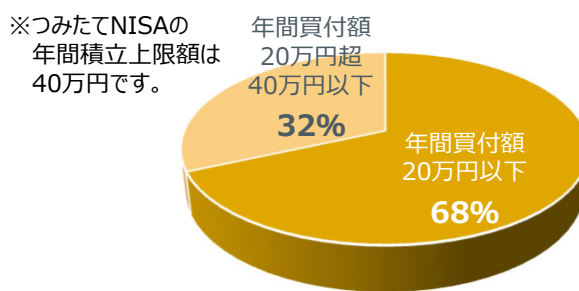


『つみたてNISA』は、主に資産形成を目指す20～40歳代が、年間20万円以下の積立投資に利用しているようです。

つみたてNISA買付額の世代別構成比率  
(2019年:金額ベース)



つみたてNISA買付額別構成比率  
(2019年:口座数ベース)



\* つみたてNISAは、少額投資のための非課税制度NISAのうち、一定の条件を満たす投資信託への積立投資に適用される非課税制度です。つみたてNISAの詳細については金融庁のホームページ等でご確認ください。また、2024年度にはNISA制度の一部改訂が予定されています。

(注1) 買付額は売却額控除前。2019年は買付額の8%相当の売却がありました。

(注2) 買付額別構成比率は買付実績のあった口座数を100%として算出。2019年は総口座数に対して42%程度買付実績のない口座がありました。

(注3) 構成比率の合計は、四捨五入の関係上100%とならない場合があります。

(出所) 金融庁のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は過去の実績であり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

# 一般NISA\*を利用した 積立投資もあります



『つみたてNISA』に比べて、投資対象が豊富で、投資可能額が3倍の『一般NISA』の積立投資でより早い資産形成を狙うこともあります。

	主な投資対象	年間最大投資可能額	最大投資期間
一般NISA	上場株式 投資信託 ETF REIT	120万円	5年
つみたてNISA	一定の条件を満たした 投資信託	40万円	20年

育った資産をまとめて、少額では難しかった投資対象に投資したり魅力的な投資対象に集中投資することも可能になります。



※上記はイメージです。

\* 一般NISAの詳細については金融庁のホームページ等でご確認ください。また、2024年度にはNISA制度の一部改訂が予定されています。  
(出所) 各種資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

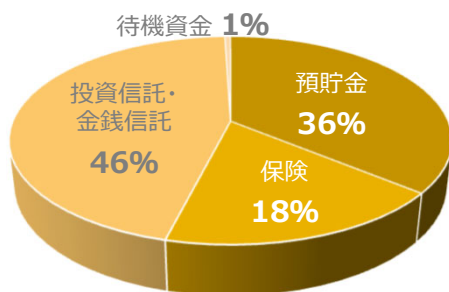
# 究極の長期積立投資 『iDeCo (イデコ) \*』で 人生100年に備えよう

Rome was not built in a day.



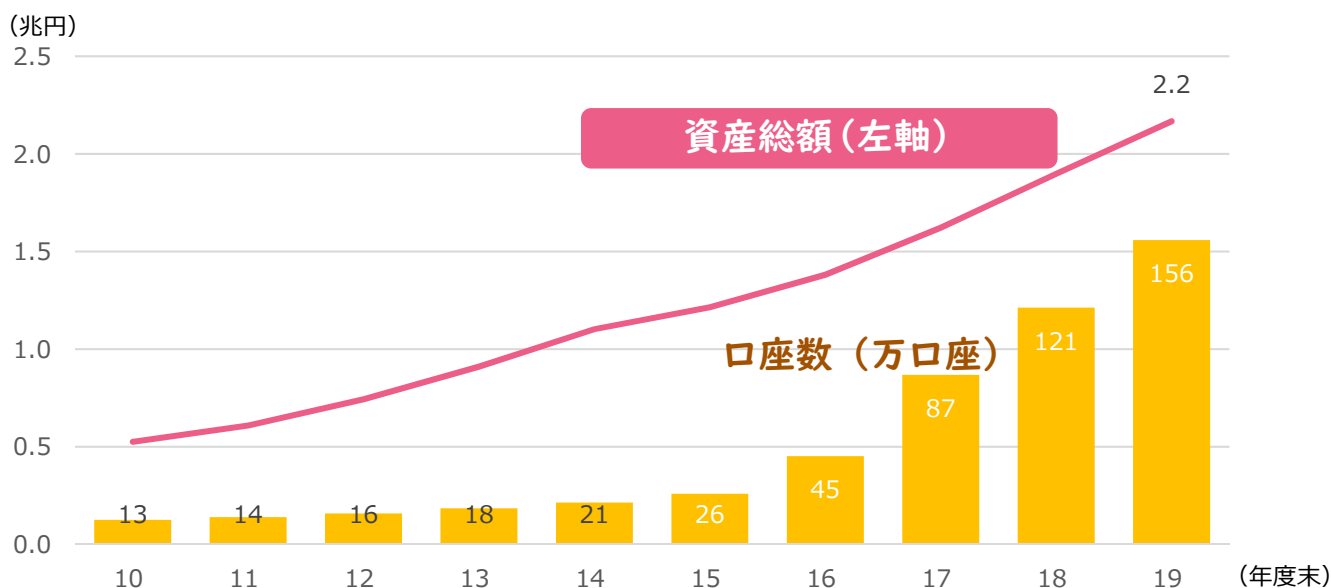
『iDeCo』なら  
『預貯金』や『保険』にも投資できます

iDeCoの運用商品別構成比率  
(2019年度末:金額ベース)



税制優遇制度の下で、最大で40年間投資が可能な『iDeCo』は  
人生100年時代への備えとして口座数が急増しています

iDeCoの口座数と資産総額の推移  
(2010年度末~2019年度末)



\* iDeCo (イデコ) は、公的年金等を補うことができる個人型確定拠出年金で、さまざまな面で税制が優遇されています。iDeCoの詳細な情報につきましてはiDeCo公式ホームページ等でご確認ください。

(注) 構成比率の合計は、四捨五入の関係上100%ならない場合があります。  
(出所) 運営管理機関連絡協議会のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

※上記は過去の実績であり、将来の成果を示唆あるいは保証するものではありません。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。



(ご参考)

# 積立投資の 時間分散効果ってなに？

投資資金を何度かに分けて投資することを「投資の時間分散」といいます。  
積立投資では時間分散効果が顕著です。

## 金融資産の短期的な価格変動は不安定

金融資産の価格は、

中長期的には、経済動向等を反映したトレンドに沿って推移しますが、短期的には不安定で、様々な要因により、そのトレンドから乖離しがちです。

## 投資タイミングのリスク

価格変動が不安定な場合、

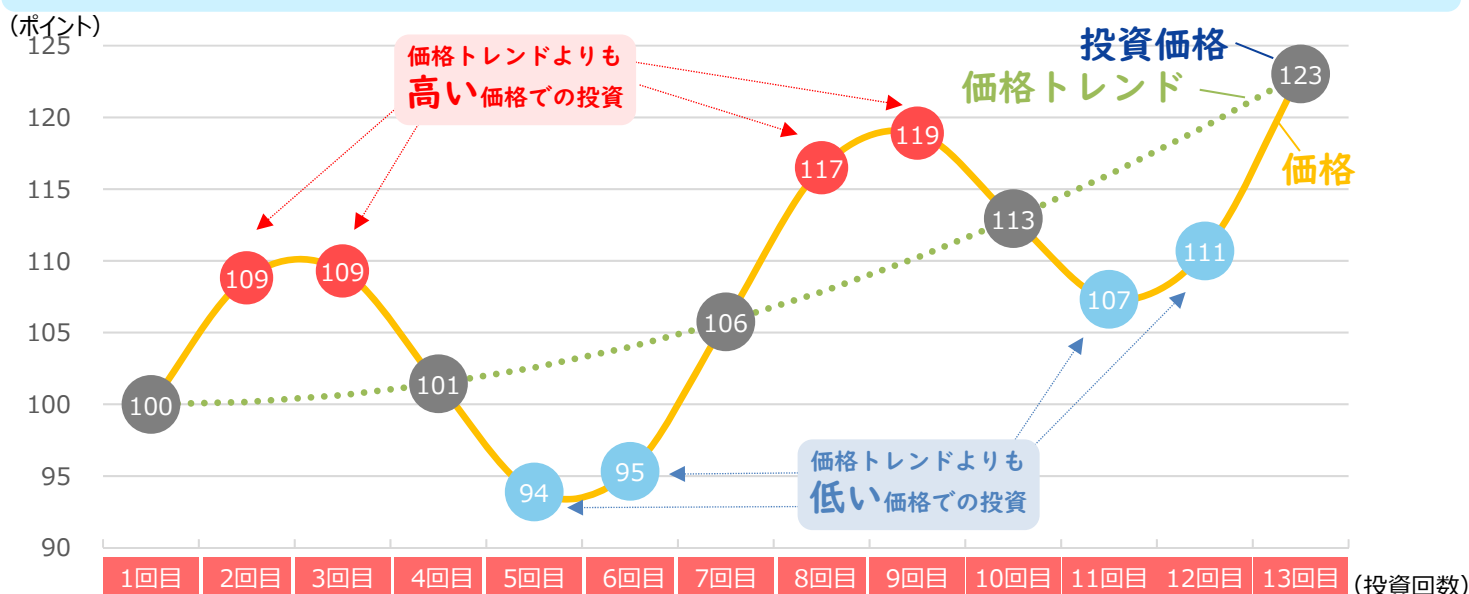
投資タイミング次第では、トレンドから乖離した価格で投資することになります。これが、『投資タイミングのリスク』です。

## 積立投資の時間分散効果

積立投資では、投資タイミングが分散（投資が時間分散）されます。

積立投資の投資価格は、価格トレンドよりも高いことも、低いこともあります。平均値は価格トレンドに近くなる可能性が高くなります。これが、『投資の時間分散効果』です。

### 積立投資の時間分散効果のイメージ（価格トレンド、価格、投資価格の関係）



※上記は一定の前提条件に基づくシミュレーションであり、実際の投資成果ではありません。また、将来の成果を示唆あるいは保証するものでもありません。

この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。



## 【重要な注意事項】

## 【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

## ●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた利益および損失は、すべて受益者に帰属します。したがって、投資信託は預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものでもありません。

## ●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用・・・購入時手数料 上限3.85%（税込）

・・・換金（解約）手数料 上限1.10%（税込）

・・・信託財産留保額 上限1.25%

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用・・・信託報酬 上限年3.905%（税込）

◆その他費用・・・監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、あらかじめその上限額、計算方法を具体的に記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由によりあらかじめ具体的に記載することはできません。

## 【ご注意】

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友DSアセットマネジメントが運用するすべての投資信託における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を必ず事前にご覧ください。

投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2020年5月29日現在〕

- 当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。
- 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。
- 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。